

社会資本総合整備計画書(案)
(安曇野市豊科南部総合公園整備計画(防災・安全))

(第2回変更)

ながのけん あづみのし
長野県 安曇野市

令和3年1月5日

(様式2) 社会資本総合整備計画 (社会資本整備総合交付金)

令和3年1月5日

計画の名称	安曇野市豊科南部総合公園整備計画 (防災・安全)							重点配分対象の該当	非対象																										
計画の期間	平成30年度 ~ 令和3年度 (4年間)			交付対象	安曇野市																														
計画の目標	<p>本市は、地震発生確率が全国的にも高いと予測されている糸魚川-静岡構造線断層帯の上に位置している (30年以内に、マグニチュード7.6程度の地震が発生する確率が13~30%)。豊科南部総合公園は、安曇野市地域防災計画において地域防災拠点として位置付けられている。大規模災害発生時には、市が指定するヘリポート、災害応援部隊の集結場所、ベースキャンプとしての既存の機能に加え、新たに物資の集積拠点、避難所、備蓄倉庫としての機能を有する総合体育館を整備し、長野自動車道梓川スマートインターチェンジ (上り) から約1キロメートルという交通利便性を活かした地域の防災拠点としての施設整備を図る。こうした防災機能に加え、スポーツを通じた交流の場、市民活動の交流の場、健康長寿を目的とする健康・体づくりの場としての機能の向上を図る。</p>																																		
計画の成果目標 (定量的指標)	<ul style="list-style-type: none"> ・体育施設の充実を図り、市内体育館の利用満足度 (個人) を、62% (H29) から65% (R3) に増加させる。 ・体育館を整備することにより、年間の体育館 (メインアリーナ、サブアリーナ、柔剣道場など) 利用者数を100,000人 (R3) に増加させる。 ・避難所となる体育館を整備、本市南東地域 (人口比率約22%) に指定避難所を配置することで、災害時に収容可能となる人数を770人 (R3) に増加させる。 																																		
定量的指標の定義及び算定式	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="4">定量的指標の現況値及び目標値</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>当初現況値 (H29年度実績)</th> <th>中間目標値</th> <th colspan="2">最終目標値 (R3年度末)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施設整備後の市内の体育館利用満足度を調査する。 (現況値は平成26年度アンケート調査による体育館の利用満足度。目標値は市内体育施設全体の利用満足度より算出。)</td> <td>62%</td> <td>-</td> <td colspan="2">65%</td> <td rowspan="3">「市内体育施設全体の利用満足度」よりも満足度が低い「市内体育館の利用満足度」を、平成26年度時点での「市内体育施設全体の利用満足度」と同水準まで上昇させることを目標とする。</td> </tr> <tr> <td>施設整備後の当該体育館の年間利用者数を測定する。 (目標値は、市内類似施設の年間利用実績をもとに、整備計画延床面積により案分して算出。)</td> <td>0人/年</td> <td>-</td> <td colspan="2">100,000人/年</td> </tr> <tr> <td>施設整備後の指定避難所としての想定収容人数を目標値に設定する。 (目標値は、避難所として計画しているメインアリーナ及び柔剣道場の床面積3㎡あたり1人として算出。)</td> <td>0人</td> <td>-</td> <td colspan="2">770人</td> </tr> </tbody> </table>										定量的指標の現況値及び目標値				備考	当初現況値 (H29年度実績)	中間目標値	最終目標値 (R3年度末)		施設整備後の市内の体育館利用満足度を調査する。 (現況値は平成26年度アンケート調査による体育館の利用満足度。目標値は市内体育施設全体の利用満足度より算出。)	62%	-	65%		「市内体育施設全体の利用満足度」よりも満足度が低い「市内体育館の利用満足度」を、平成26年度時点での「市内体育施設全体の利用満足度」と同水準まで上昇させることを目標とする。	施設整備後の当該体育館の年間利用者数を測定する。 (目標値は、市内類似施設の年間利用実績をもとに、整備計画延床面積により案分して算出。)	0人/年	-	100,000人/年		施設整備後の指定避難所としての想定収容人数を目標値に設定する。 (目標値は、避難所として計画しているメインアリーナ及び柔剣道場の床面積3㎡あたり1人として算出。)	0人	-	770人	
	定量的指標の現況値及び目標値				備考																														
	当初現況値 (H29年度実績)	中間目標値	最終目標値 (R3年度末)																																
施設整備後の市内の体育館利用満足度を調査する。 (現況値は平成26年度アンケート調査による体育館の利用満足度。目標値は市内体育施設全体の利用満足度より算出。)	62%	-	65%		「市内体育施設全体の利用満足度」よりも満足度が低い「市内体育館の利用満足度」を、平成26年度時点での「市内体育施設全体の利用満足度」と同水準まで上昇させることを目標とする。																														
施設整備後の当該体育館の年間利用者数を測定する。 (目標値は、市内類似施設の年間利用実績をもとに、整備計画延床面積により案分して算出。)	0人/年	-	100,000人/年																																
施設整備後の指定避難所としての想定収容人数を目標値に設定する。 (目標値は、避難所として計画しているメインアリーナ及び柔剣道場の床面積3㎡あたり1人として算出。)	0人	-	770人																																
全体事業費	合計 (A+B+C+D)	3,758百万円	A	3,758百万円	B	0百万円	C	百万円	D	0百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0.0%																							
交付対象事業																																			
A 基幹事業																																			
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考																		
A-1	公園	一般	安曇野市	直接	安曇野市	都市公園事業 (豊科南部総合公園)	公園敷地の拡張2.9ha、総合体育館(床面積)7,400㎡、新設駐車場約420台	安曇野市	H30	R1	R2	R3	R4	1,916	4.0																				
A-2	公園	一般	安曇野市	直接	安曇野市	都市公園事業 (豊科南部総合公園) (5か年防公)	災害時に指定避難所となる公園敷地の拡張2.9ha、総合体育館(床面積)7,400㎡、新設駐車場約420台	安曇野市						1,842	4.0																				
合計													3,758																						
B 関連社会資本整備事業 (該当なし)																																			
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考																		
合計													0																						
C 効果促進事業																																			
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考																				
合計													0																						
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考																							
D 社会資本整備円滑化地籍整備事業																																			
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考																				
合計																																			
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考																							

交付金の執行状況

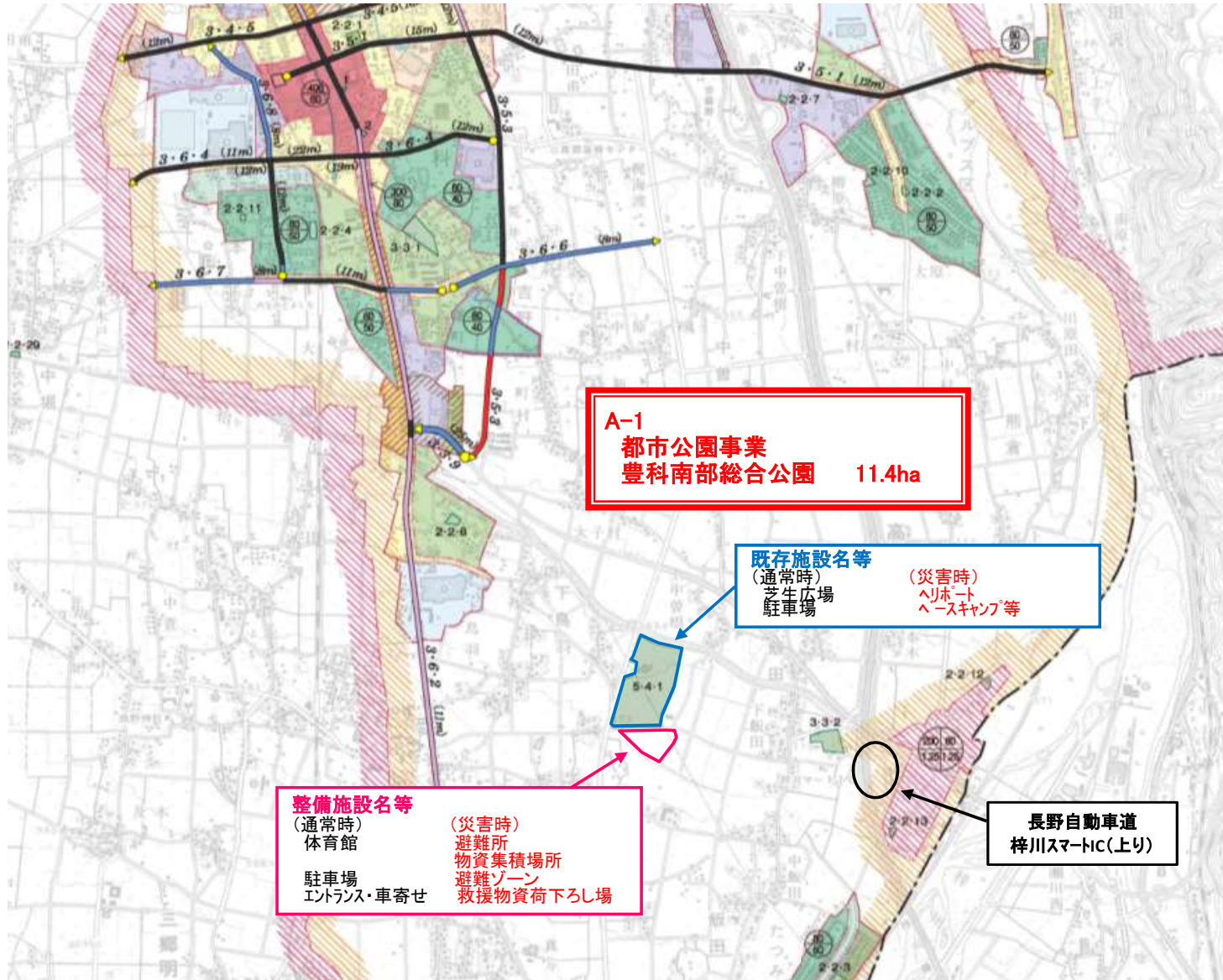
(単位:百万円)

	H30	H31	R2	R3	R4
配分額 (a)	64	346	500		
計画別流用 増△減額 (b)					
交付額 (c=a+b)	64	346	500		
前年度からの繰越額 (d)		30			
支払済額 (e)	34	376			
翌年度繰越額 (f)	30				
うち未契約繰越額 (g)					
不用額 (h = c+d-e-f)					
未契約繰越+不用率 (h = (g+h)/(c+d))					
未契約繰越+不用率が10%を超えている 場合その理由					

※ 平成30年度以降の各年度の決算額を記載。

社会資本総合整備計画

計画の名称	安曇野市豊科南部総合公園整備計画（防災・安全）		
計画の期間	平成30年度 ～ 令和3年度（4年間）	交付対象	安曇野市



社会資本整備総合交付金チェックシート(事前評価)

計画の名称：安曇野市豊科南部総合公園整備計画(防災・安全)

事業主体名：安曇野市

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①上位計画との整合性	
1)計画の目標が緑の基本計画と適合している。	○
2)上位計画等と整合性が確保されている。	○
②地域の課題への対応	
1)地域の課題を踏まえて事業内容が検討されている。	○
II. 計画の効果・効率性	
①目標と事業内容の整合性等	
1)目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
2)指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3)指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
②事業の効果	
1)十分な事業効果が見込まれている。	○
III. 計画の実現可能性	
①地元の機運	
1)事業内容について地元の意見が反映されている。	○
②円滑な事業執行の環境	
1)計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○